

令和2年度
美馬中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「主体的に学習する力を伸ばす授業づくり」
- ②「学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
校長：井上治久 教頭：重本哲也 教頭：松尾正規 教務主任：日浦宜子
寺内 やよい 1学年主任：武岡美智 2学年主任：森川真由美 3学年主任：野口亜希子 特別支援コーディネーター：中本憲志

校長

井上 治久



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 国語科は、2、3年生については「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において一定の成果が見られる。また、数学科の「数と式」の範囲の「技能」の領域については、優れている生徒が多い。	①家庭で宿題や授業の予習・復習が毎日継続できる。 ②授業の準備ができ、見通しをもって学び、振り返りができる。	①学校アンケートで、8割以上の生徒が「家庭学習の習慣」が定着したことを実感する。 ②8割以上の生徒が、授業の内容がわかったと実感する。			
課題 家庭学習の習慣が定着し、基礎的・基本的な学力が定着している生徒と、それらが不十分な生徒との差が大きい。	①提出している宿題の可視化と、モデルの提示をする。 ②「家庭学習の友」を有効に活用する。 ③授業の中で、ホワイトボード等を使って生徒同士が教え合う場を設ける。	①充実した家庭学習をしている生徒の実践を適宜提示する。 ②授業の中で生徒同士が教え合う場を意識的に設ける。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 相手の話の意図を考えながら聞いたり、相手にわかりやすく伝えようと工夫して話したりすることができるようになってきている。	①話し手の意図を考え自分の考えと比べながら聞くことができる。 ②目的に応じて自分の考えを根拠を明らかにしながら、表現を工夫して話したり書いたりすることができる。	①8割以上の生徒が、話し合い活動を通して自分の考えが深まったことを実感する。 ②毎日1回は自分の考え等を表現する機会を設ける。			
課題 授業の中で、進んで発表したり、わからないところを質問したりする生徒が少ない。	①すべての教科でベアトークや話し合い等を取り入れた学習活動を行う。 ②生徒が主体的に取り組むための授業方法について研修を深め、小中合同の授業研究会や、生徒による出前授業の指導にいかしたり、教師による出前授業を実施したりする。	①毎日1回は生徒が自分の考えを述べ合い表現する場面を設定する。 ②教師間で授業を見学し合う「学び合いweek」を年2回実施する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ チャイム着席ができ、学習のきまりをよく守り、落ち着いた雰囲気での学習ができる。	①短期的、長期的な自分の目標を決めて、小さな努力を続けることができる。 ②わからないところを自覚し、自ら解決しようとする。	○7割以上の生徒が、目標をもち努力を続けることで、自分が成長したと実感することができる。			
課題 指示されたことに対しては真面目に一生懸命取り組めるが、自ら考え主体的に行動できる生徒に限られている。	①「家庭学習の友」を活用し定期的に記入させ、チェックし、適宜アドバイスをする。 ②小中連携して「家庭学習強調週間」や「自主勉ノート展」を設け、生徒への意識づけや良いモデルの可視化を図る。	○毎月1回を「家庭学習の友」の記入日とし、定期的に学習や生活習慣についての見直しと振り返りができるようにする。		評価	次年度における改善事項

令和2年度 学力向上ロードマップ

